

祥伝社
新書

9月1日発売!!

国会議員時代に大阪都構想の手続きを定める「大都市法」の責任者を務めた松浪ケンタ。昨年5月に大阪府議会議員となった直後から都構想の本を書くプロジェクトに取りかかった。まず相談したのは、吉村洋文知事だ。

ケンタ「住民投票に向けて、大阪都構想の本を書こうと思います。前回案との違いを際立たせるために、タイトルは『大阪都構想2.0』を考えています」
吉村知事「都構想を分かりやすく

知ってもらうことは大切です。全面協力しますよ」

これを受けて吉村知事は、維新きつての政策通である横山英幸府議にケンタのサポートを依頼してくれた。
編集者には、故・堺屋太一先生にご紹介頂いた豊田利男氏にお願いした。豊田氏は、これまでの堺

屋先生の本のほとんどを手がけ、かつて100万部のベストセラーとなった「日本改造計画」（小沢一郎著）を担当した敏腕編集者だ。新聞記者出身のケンタにも一流編集者のご指導はよい経験となった。コロナの期間、ケンタが朝から晩まで資料と格闘しながら書き上げた「大阪都構想2.0」をぜひお読みください。

大阪都構想2.0

副首都から
国を変える

松浪ケンタ

前衆議院議員
大阪府議会議員

未来を
書き換えよう!

5年前とはここが違う
東京一極集中を脱し
「大阪都」が新しい歴史を創る!

祥伝社

大阪府知事
吉村洋文氏との
特別対談収録

急出版

ケンタ通信

89号

【松浪ケンタ】

大阪府議会議員、関西広域連合議会議員、前衆議院議員（5期）。昭和46年生まれ、清風高校、早稲田大商学部卒。産経新聞記者を経て政界入り。道州制をライフワークとし、大阪都構想の根拠法である大都市法の

与野党協議責任者を務めた。これまでに衆議院決算行政監視委員会委員長、内閣府大臣政務官（道州制、地方分権など担当）、厚生労働大臣政務官のほか、総理大臣が諮問する地方制度調査会の委員など歴任。

大阪都構想2.0

～副首都から国を変える～

目次

はじめに

第1章 不幸せな「府市あわせ」

二重行政の弊害

10センチ差の「背比べ」

並び立つ浄水場

府市が張り合うワケ

大阪「府」の斜陽

大阪府は破産会社

禁断の「減債基金」取り崩し

橋下改革、怒涛の船出

太田府政の「尻ぬぐい」

大阪「市」の斜陽

ゴーヤとエアコン

全国一の損失

全国一の天下り

民営化という治療

「バーチャル大阪都」

コロナ対策にも有効

動き出した巨大プロジェクト

効果が出すぎた？

第2章 民意がつくった「大都市法」

大阪ダブル選挙

既成政党の衝撃

異例づくしの法律

幻の「自公議員連盟」

自民党大都市PT発足

菅義偉座長の剛腕

名称にはこだわらない

ねじれ国会の後押し

自治体の「格下げ」と住民投票

4度の法案提出

堺屋事務所で消えた文言

与野党3案を一本化

一般法か特別法か

憲法95条をかいぐぐれ

第3章 再び住民投票へ

住民投票2015

自民・共産の“呉越同車”

1%差の否決、橋下の引退

大阪市の南北問題

否決の後に

ポンコツ会議

法定協議会の「学級崩壊」

ダブルクロス選挙2019

死んでも死にきれない

「秒殺」劇

府市議選の不思議

市議会議長の鞍替え

まさかの4票差

公明への「刺客」のレッテル

2度目の住民投票へ

法定協議会の議席逆転

第4章 「大阪都構想2.0」とは

公明・自民の賛成

賛成16 反対13

公明の4条件

公明の支持層と反対票

前回案と違うこと

①「副首都」を目指す

②「大阪都」へ名称変更

③大阪市民に負担ナシ

④4区案～拠点ある街づくり～

⑤変わらぬ住民サービス

東京23区からの改良点

①格差に配慮した区割り

②東京は55対45、大阪は79対21

③特別会計で見える化

④政令市を超える権限

⑤一票の重みの格差を解消

身近で安全な4特別区

選挙で選ぶ4区長

向上する防災力と「大阪消防庁」

「大阪警視庁」の誕生？

少数区議会が常識を変える

日本の常識は世界の非常識

政令指定都市の半数で

第5章 そして「副首都」へ

副首都なくして多極化なし

「東京国」と「地方国」

副首都推進本部の発足

①「分都」～二極構造への転換～

首都機能移転の失敗

比類なき一極集中

世界の首都機能分散とICT

②「重都」首都機能のバックアップ

危機管理都市議員連盟

平時にも非常時にも

③「民都」～もうかる副首都へ～

アジアの主要都市

悪い冗談

「グレーター大阪」と「副首都圏」

住民投票ナシで特別区に

どうする副首都圏

終章 副首都から国を変える

～吉村洋文知事との対談～

おわりに